

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	公共交通利用促進事業						担当部	環境交通部		
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	交通防犯課		
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	交通空港係		
	総合計画 分野別計画	主目的	2 環境交通		8 公共交通		4 公共交通の利用を啓発する				
		副目的	8-2		8-3						
	予算区分	款	2	項	8	目	2	大	3	中	1
	根拠法令・個別計画										
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	人にも環境にも優しい「交通先進都市こまき」の実現に向け、円滑な移動手段の確保による快適な住環境や都市機能の充実を目的とした交通網の充実を図る。									
	内容 (手段)	<p>○デマンド交通実証実験運行 バスとタクシーの中間的な乗り物で、予約制の公共交通機関であるデマンド交通について、東部地区及び北部地区において実証実験を行う。 平成21年に市民1万人の協力のもと実施したパーソントリップ調査結果から、市内における移動特性のうち、市民の買い物や通院などの日常的な生活圏を分析し、居住地区と日常的な生活圏が同じ地域である北部地区と東部地区にて実証実験運行を行うこととした。また、自転車の利用が不便な丘陵地が含まれていることも対象エリアの選定理由の一つとなっている。 【運行期間】平成25年8月1日～平成26年7月31日まで 【運航日】平日及び土曜日 【利用料金】大人300円／1回・小学生100円／1回・幼児無料</p> <p>○デマンド交通実証実験検証・巡回バス再編再編計画作成業務 デマンド交通の実証実験を通して本格運行に向けた調査・検討を行うとともに、巡回バスの運行ルート及びダイヤの再編について検討する。</p> <p>○バス運行対策費補助金 重要な東西公共交通軸の桃花台と小牧駅間の公共交通機関を維持するため、ピーチバスの乗合バス事業者に運行対策費補助を交付し、交通手段の確保を図る。</p> <p>【平成24年度直接経費の内訳】 バス運行対策費補助金(7,000千円) 平成24年度公共交通利用促進協議会補助金(665千円) 生活交通検討委託(788千円) 【平成25年度直接経費の内訳】 バス運行対策費補助金(7,000千円) 平成25年度公共交通利用促進協議会補助金(700千円) デマンド交通実証実験運行委託(22,557千円) デマンド交通実証実験検証・巡回バス再編再編計画作成業務(23,500千円)</p>									
	受益者負担	有									

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	776	3,212	8,453	53,757	
		正職員	従事者数	人	0.35	0.35	0.35	0.35
			人件費	千円	1,865	1,865	1,865	1,865
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	2,641	5,077	10,318	55,622	
	対前年比	%		192.2	203.2	539.0		
財源	一般財源	千円	2,641	5,077	10,318	55,622		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	公共交通利用促進協議会による啓発活動(事業)数	件	目標	4	4	4
実績				4	4	4	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				
成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25	
こまき巡回バス年間利用者数	人	目標	312,000	318,000	358,000	365,000	
		実績	292,217	322,379	389,776		

事業の自己評価	平成24年度の達成状況	公共交通利用促進協議会の役員をはじめ、多くの会員の参加を得て活発な啓発活動を実施することが出来た。また、名古屋鉄道(株)をはじめ、愛知県など4箇所の関係機関へ役員による強力な要望活動を実施した。それら地道な活動も一助となり、名鉄小牧線利用者、巡回バスともに目標を上回る利用者となった。さらに、味岡駅のエレベーター設置についても、名鉄と協議を開始したところである。				
	事業実施における課題	市民まつりやいきいきこまきでの啓発活動と関係機関への要望活動が主な活動となっているが、活動がマンネリ化しつつある。				
	事業を縮小・廃止したときの影響	市民が中心となって行っている公共交通を支える活動の継続が困難になる。				
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	巡回バスの見直しを控え、以前は入会の勧誘対象外であった巾下地区と北里地区の区長に対しても入会案内を送付し、活動の基盤となる組織の強化を図る。			
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
	判定理由	平成22年度から市内の主な企業に役員として参加していただき、通勤に係る現状と課題について検討することができた。今後、市民のみならず、企業や学校など、多様な主体を対象とした啓発活動が必要である。要望活動の内容については、事業者の経営状況等にも左右されるため、今すぐ実現する可能性は低いものの、継続的な要望活動は、今後も必要である。				
	26年度以降の改善案	ピーチバスなどの路線バスや名鉄小牧線など公共交通の維持のためには、利用者の増加が不可欠である。平成24年度においては、市民まつりやいきいき小牧で会員による啓発活動を行ったが、市民や企業、学校など幅広い市民参加により活動を進めていく必要がある。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。